

～もうすぐ1年生～

5歳児さくらさんはもうすぐ1年生。    

さくらさんたちは、そら、やまの部屋で3歳児さん4歳児さんたちと共に生活をし、小さい子たちから憧れられたり、自分の持っている力を貸してあげたり、時にはケンカしたりしながら育ち合って来ました。そして、友だちの気持ちを感じとり、仲直りする喜び、人として生きる土台を築いてきました。

これから先、いろいろなことがあって落ち込むこともあるかと思いますが大丈夫。子どもたちは、生活力や考える力、人と共に力を合わせてやっていく喜びをたくさん培って来ました。小学校に行っても、友だちとたくさん遊び、勉強し、命を大切に、そして、お家のお手伝いもやって、毎日元気にすごしてください。

卒園そして小学1年生、おめでとう！



園長を退任致します ～これまでありがとうございました～

今は待機児童が落ち着きを見せていますが、2000年代に入って待機児童問題が全国的に拡大しました。“4月から職場復帰が決まっているのに保育園に入れない”“保育園への入園ができず、実家のお母さんや、兄弟の協力も得ながら一時預かりでやりくりをしている”等々保育園への入園を望む声は本当に切実なものでした。そして2016年2月、待機児が一向に解決しない中、「保育園落ちた、日本死ね！」というブログがアップされ、これが拡散されました。そして、待機児童問題をめぐってこのことが国会で取り上げられました。これに対して政府側は「匿名なので確かめようがない」とか、「本人を出せ」などのヤジが飛ぶと、「保育園落ちたのは私だ！」とプラカードを掲げ、国会前で70名を超す保護者の人たちがスタンディングを行いました。そして入所を求めた署名が6日間で28,400筆集まるという動きが起きました。

こうした保護者の声に対して政府が行ったのは、規制緩和をさらに進め、詰込み保育をすることなどで、抜本的な待機児童対策は行って来ませんでした。もちろんこうした政府の対応に関して、保育関係者や研究者、弁護士たちは規制緩和ではなく、認可保育所の増設などを求め国に要望をしてきました。

もともと待機児童問題が起こってきた背景には、国が保育所にかかるお金を一般財源化してしまったからです。そうするとこれまで保育所にかかるお金はそのことだけに使うというルールが無くなり、財源が限られている自治体は公立保育所を民間移管したり、縮小・廃止するという動きに変わって行きました。一方で、景気は悪くなり、男性の賃金は上がらず、女性も働かなくてはやっていけないことや、女性の社会進出は右肩上がり伸びて来ました。こうして、保育所への需要は伸びる一方で、国は保育政策を放置してきた背景から、待機児問題が全国的に大きくなって来たのです。

名古屋市内でも、こうした問題に対し、保育園の定員拡大や、小規模保育所、賃貸型保育所等を作ったりして対応してきました。私が以前いたどんぐり保育園では60名定員を90名定員に拡大し、保育室も増やし、最大100名まで受け入れる等対応を取って来ました。名古屋市内の各園がそれぞれに対応をしてきましたが待機児は解消されず、もう一つ保育園を作れないものかと法人内で色々と対策を重ねて来ました。



こうした待機児童問題を背景とし、2017年に「都市公園法の改正」があり、一定の空間があり、地域の理解が得られれば公園内に保育園を作っても良いという制度が出来ました。こうした中、2018年2月に平和公園内に保育園の建設計画を名古屋市が発表しました。計画図をみると、いつも私がランニングで横切っている場所ではないか。慣れ親しんだ場所であり、自然も豊かな場所であるこの場所に保育園を作りたいという思いを強くし、法人内で応募への確認をし、みんなで力を合わせて応募書類を作成し、名古屋市のヒアリングを経るなどしてきました。そして2018年3月末に我が法人が選定された旨結果通知を受けました。それからは、どんぐり保育園を設計した設計事務所の協力も得、園舎の図面設計、保育計画、人事計画などの作成を急ピッチで作業を進めて来ました。9月から建設着工予定でしたが、名古屋市の関係部局内で着工の許可が下りず、名古屋市保育企画室との話し合いを何度も重ねるということもありましたが、10月末やっと着工の許可が下り、当初の計画から2か月遅れての工事着工となりました。

工事を請け負ってくれた加納工務店さんは年末年始もなく、工事を進めてくれ、2019年4月1日の入園式を何とか迎えることが出来ました。



2019年開園し、はじめての保育園の中で、運営委員や夏まつり、ののかぜ広場、保育を良くする署名活動など各部の役割を父母の皆さんに分担し請け負っていただきながら運営を進め、父母の皆さんと交流の場を持ってきました。これからこうした活動を大切につなげて行こうとしていたところ、翌年から新型コロナウイルス感染症が発生しました。新型コロナウイルス感染症対応に追われた3年間で、父母との交流を大切に、これから共に保育園を作っていくということが難しくなってしまいました。それでも皆さんの協力のもと、各実行委員会をzoomなども活用しながら開催したり、運営委員会を中心に、共に集えないながらどうやって交流が図れるかを考え、工夫し取り組んで来れました。ひとえに父母の皆さんの協力あってのことです。本当にありがたく思っています。



私は子どもたちにとって何よりも平和であることが大切であると思っています。なので保育園の理念には「いのち（命）・平和・人権」が大切にされる社会の実現を念頭にもって保育園運営を心掛けて来ました。

日本の保育所の職員配置基準はとても厳しいものがあります。子どもたちや保育士にとってもっとゆとりのある、そして子どもたちの安全が守られる職員の配置基準の改善を求め、「子どもたちにもう一人保育士を！」の運動を作っています。今、愛知の父母・職員が上げたこの声が全国に広がり、新聞やテレビでも取り上げられ、国会でも質疑がなされるようになってきています。今後さらにこの動きを大きくし、日本の子どもを取り巻く保育環境を大きく改善されていく事を願っています。

園長は退任しますが、緑の丘福祉会の理事としては残りますので、この新しい課題に向かって保育環境を良くして行きたいと考えています。

今後ともみなでこの保育園を作っていって欲しいと願っています。



園長 小西 只剛